

第53回 東北治水大会

奥入瀬溪流の「風致上必要な放流量」は
どのように決められたのか

平成25年11月1日

あおもりの川を愛する会
水木 靖彦

〇はじめに

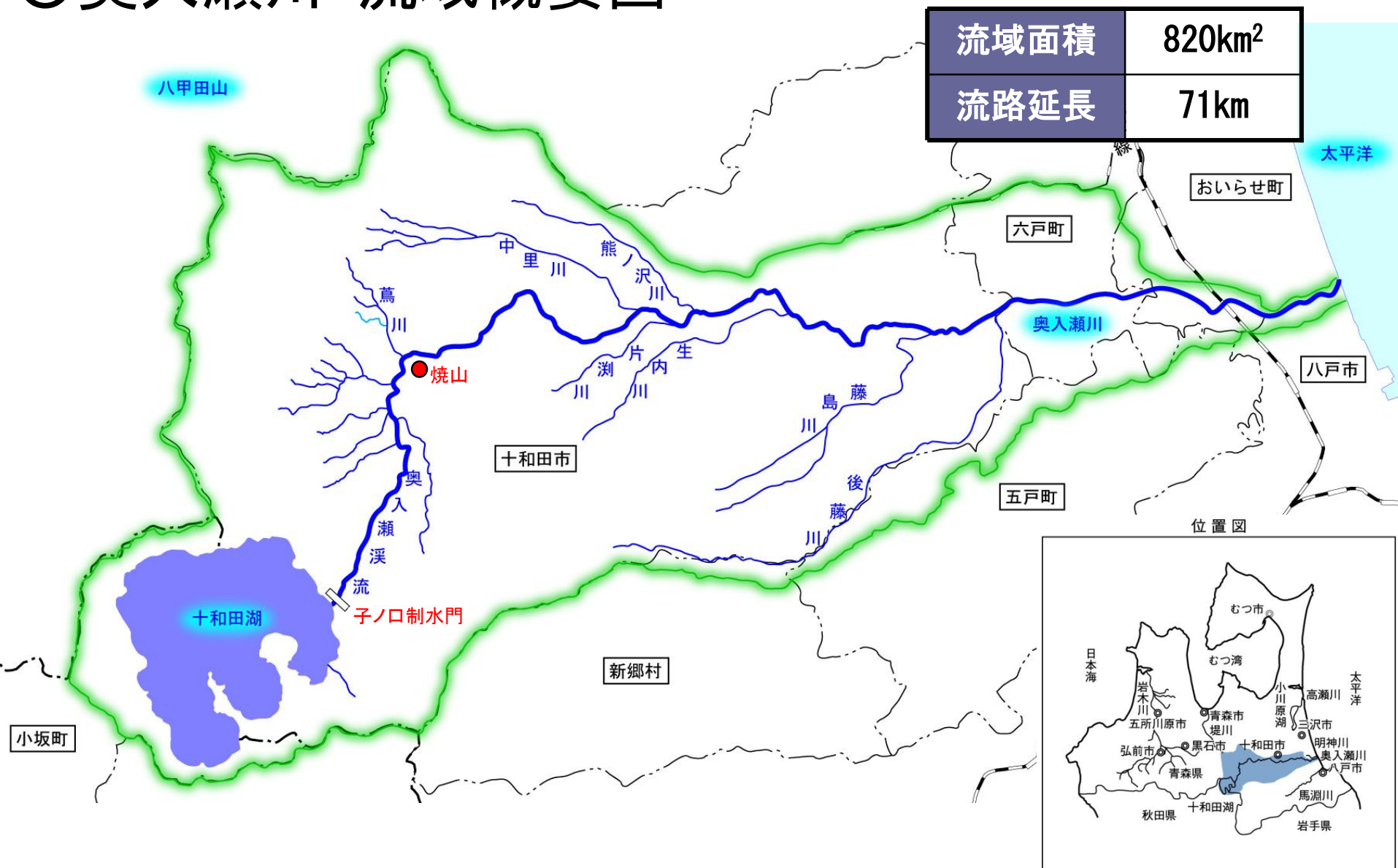
これから私が皆さんにお話しすることは、今から76年も前の昭和12年に決定された「奥入瀬川河水統制計画」という古めかしい「計画」にまつわる話です。この計画は、秋田・青森両県またがる十和田湖に貯溜した水を、灌漑計画と発電計画にどのように配分して利用するかを定めたものですが、この時に、十和田湖から流れ出る奥入瀬溪流の景観保全のためどの程度の放流量を確保するかが大きな課題になりました。奥入瀬溪流と十和田湖は、昭和11年に十和田国立公園に指定されていたからです。

当時の関係者は、内務省、農林省、逓信省ですが、様々な経緯を辿って、5月11日から11月15日までの間に限って、奥入瀬溪流への昼間の放流量を毎秒 5.56m^3 と決めています。この放流量のことを当時は「風致上必要ナル水量」といっておりますが、どの資料や文献にも、どのような根拠や理由によって毎秒 5.56m^3 と決定したのかを説明したものは見当たらないのです。

本日の私の話は、河川環境保全についての現在の見解にもとづいて過去の決定を評価しようとするものではなく、当時の担当官がどのような根拠により放流量を決めたのかについて、私が推定して得られた結果を皆さんに紹介しようというもののなのです。

東北地方治水大会という場で、私の個人的な好奇心に促されて調べあげた「架空の話」をしても、皆さんが担当している河川行政などにはプラスにならないと思いましたが、本県最大の観光地で、優れた自然環境を誇る奥入瀬溪流への関心を高めていただければと考えて講演を引き受けた次第です。資料につきましては、途中を大幅に省略して、「風致上必要な放流量」に絞って話を進めますので、興味のある方は後ほどご覧ください。

○奥入瀬川 流域概要図



出典：第1回十和田湖・奥入瀬川の水環境・水利用検討委員会（平成18年10月13日）

○奥入瀬溪流

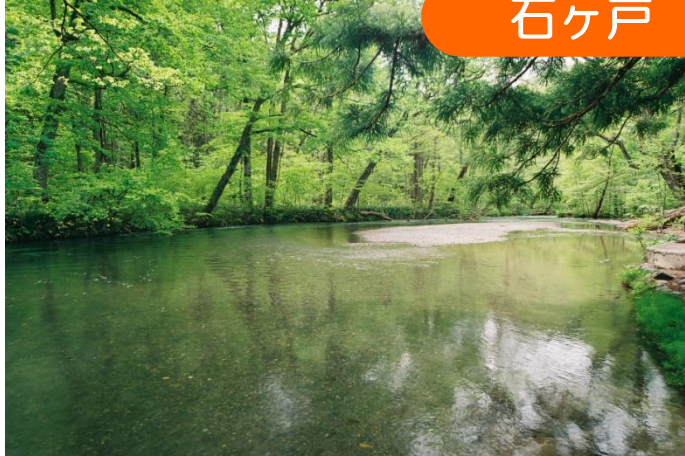
- ・ 十和田湖畔の子ノ口から焼山までの約14kmの奥入瀬川の溪流のことをいう。現在は十和田八幡平国立公園に属し、国指定の特別名勝及び天然記念物となっている。その内、子ノ口から惣部までの約10kmは、かつて、「将来永久神仙ノ境トシテ俗手ヲ加フルヲ嚴避シ」と地元から強い要請があった区間である。
- ・ 溪流沿いにはいくつもの滝が点在しており、十和田湖への魚の遡上を阻止して来た魚止めの滝でもある銚子大滝をはじめとして、阿修羅の流れ、雲井の滝等多くの景勝地がある。溪流沿いの道は「瀑布街道」とも呼ばれ、遊歩道が整備されている。新緑や紅葉に時期は特に観光客が多い。
- ・ 奥入瀬溪流は、1928年(昭和3年)に十和田湖とともに名勝及び天然記念物に、さらに1936年(昭和11年)には十和田国立公園に指定された。その後、1956年(昭和31年)7月に八幡平地区が追加され、十和田八幡平国立公園と改称されている。

○十和田湖の景観



○奥入瀬溪流の景観

石ヶ戸



阿修羅の流れ



万両の流れ

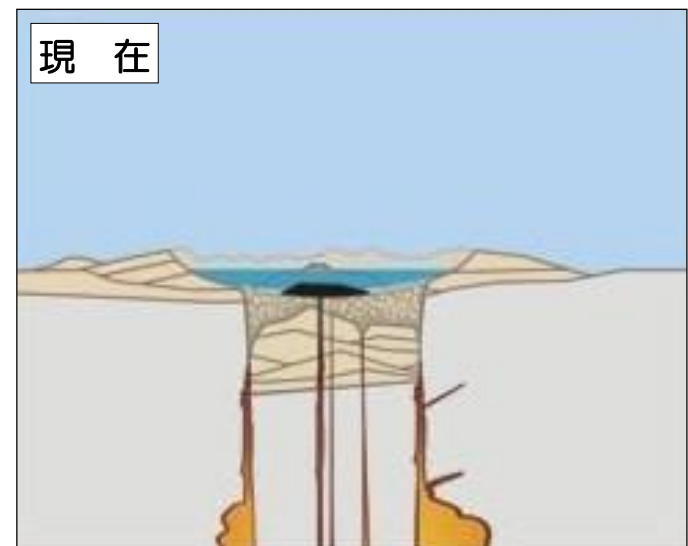
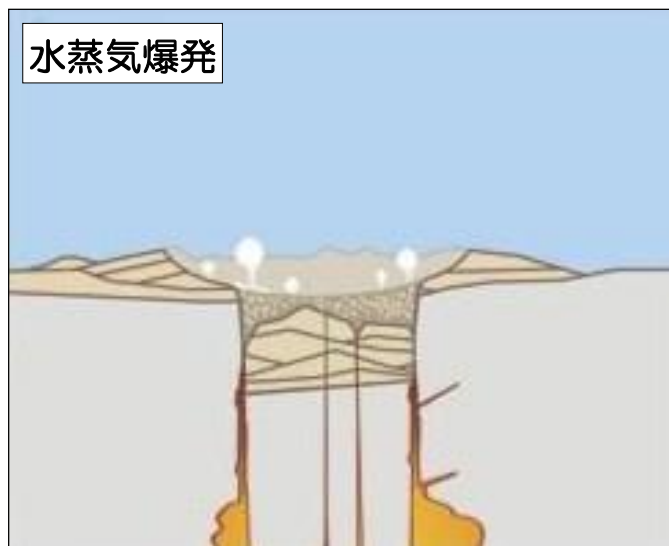


銚子大滝



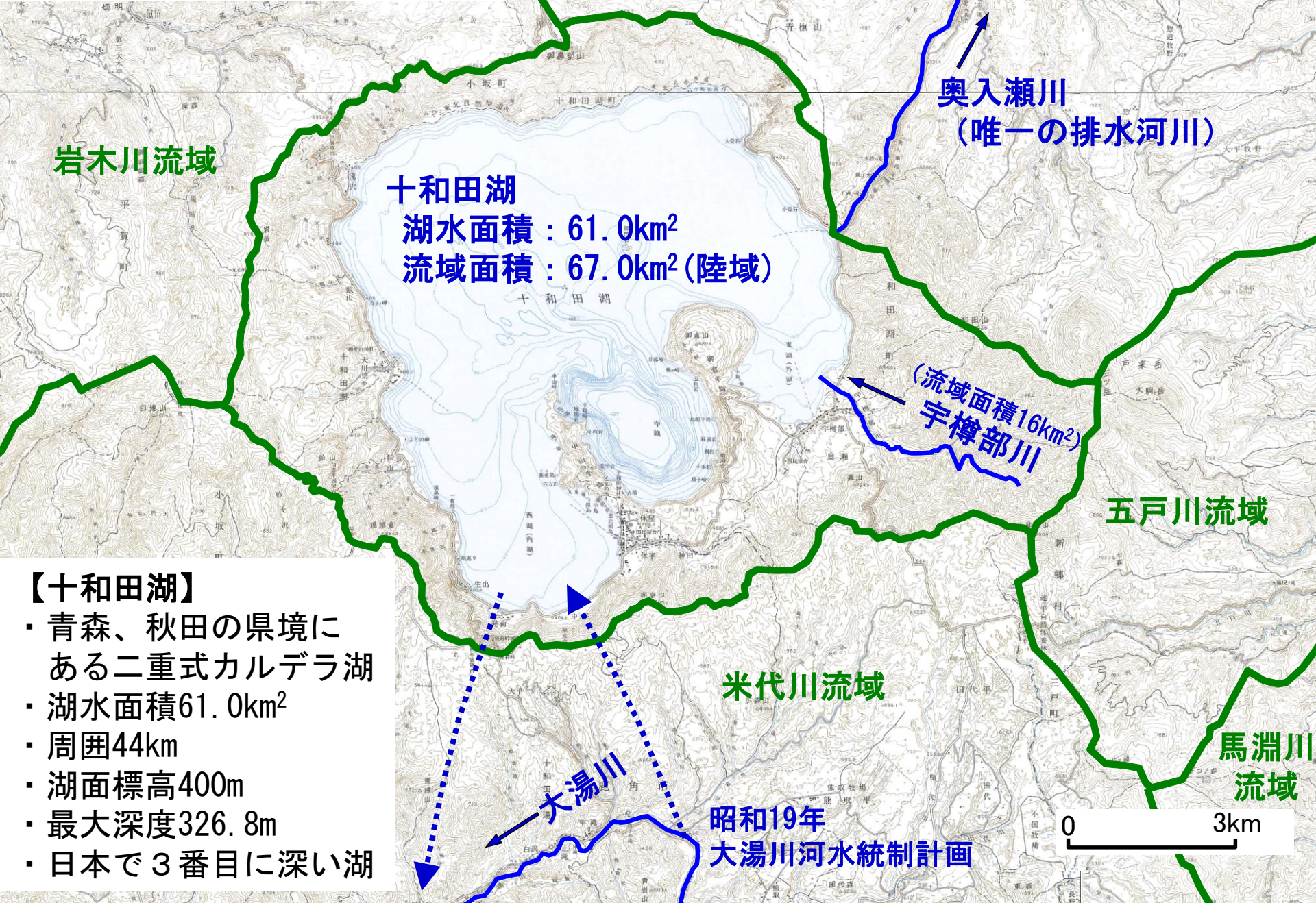
十和田湖

○陥没カルデラの生成モデル



クレーターレイクカルデラの場合（出典：フリー百科事典「Wikipedia」）

○十和田湖の地形



岩木川流域

十和田湖
 湖水面積 : 61.0km²
 流域面積 : 67.0km² (陸域)

奥入瀬川
 (唯一の排水河川)

(流域面積16km²)
 宇樽部川

五戸川流域

米代川流域

馬淵川流域

- 【十和田湖】
- ・ 青森、秋田の県境にある二重式カルデラ湖
 - ・ 湖水面積61.0km²
 - ・ 周囲44km
 - ・ 湖面標高400m
 - ・ 最大深度326.8m
 - ・ 日本で3番目に深い湖

大湯川

昭和19年
 大湯川河水統制計画

